



発行：NPO法人みのお山麓保全委員会 平成29年(2017年)秋号

みんなで守り、育て、活かす 箕面の里山

四季折々に美しい山なみ景観、かけがえのない森の恵み



四季折々に美しい山なみ景観は、心の安らぎや憩いの場を与え、私たちの生活にうるおいをもたらしてくれます。

森はきれいな空気を提供してくれ、手入れがされた森は土砂の流失を防ぎ、雨が降っても水を貯えてくれるなど、私たちの生活は「森の恵み」に支えられています。

また、里山には多くの植物や生き物が住んでおり、森に入ると川のせせらぎや鳥の声が心地よく都会生活では味わえない、心と身体のやすらぎを私たちに五感で感じさせてくれます。

里山の課題に、どのように向き合っていけばいいのでしょうか

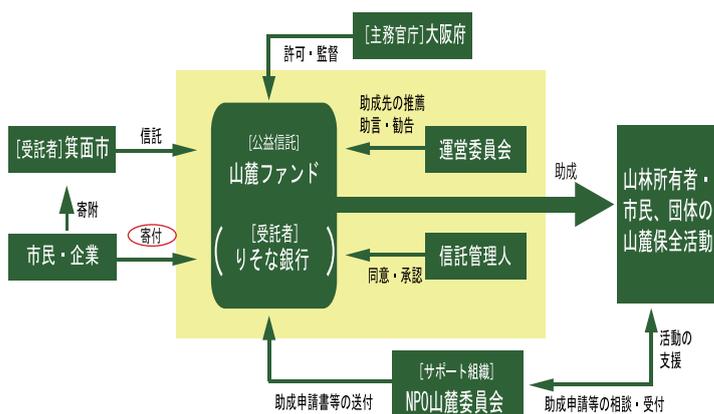
箕面山麓、明治の森箕面国定公園の南斜面一帯の緑でおおわれた部分は、かつては人の手が入り保全され、持続可能な活用がされていた里山でした。

しかし、経済的価値がなくなった山には人の手が入らなくなり、不在地主や不明地主も増えました。また、近年はシカによる食害やナラ枯れ被害が目立つようになりまし。気候変動の影響による集中豪雨の発生や土砂災害も気になるところです。

身近にある自然、箕面の里山に、これから私たちはどのように向き合っていけばいいのでしょうか？



公益信託「みのお山麓保全ファンド」の仕組み



山麓保全活動の目標は、森の恵み＝森が持つ公益的な機能を最大限発揮させること。

山林所有者や市民、行政など立場の違う主体が同じ目標のためにさまざまな活動を行っています。

活動を資金面で支援する山麓ファンド、創設時の財源は枯渇しましたが、市民のご寄付の他、新たに「開発事業等緑化負担税」が施行されたことにより、この仕組みを継続することができました。

箕面の里山には、簡単には解決できない難しい課題がたくさんありますが、次世代の子供たちに森の恵みを引き継ぐために、少しずつ、出来る事をみんなで考えて、みんなで守り、育て、活かしていきましょう！

里山の恵み・・・生態系サービス（私たちが生態系から得ている恵み）

生物多様性とは、豊かな生き物の個性とつながりのこと。私たちの暮らしは、食べ物や水、気候の安定など、多様な生き物が関わりあう生態系から得ている恵み（生態系サービス）によって支えられています。

森に守られ、森の恵みを得ている私たちの暮らし

山にある豊かな森は、雨水をためこむダム役割を果たしてくれます。大雨がふっても水が一気に流れ出るのを防ぎ木々の根は土壌をしっかりと抱え込み、土砂の流出を軽減し私たちは安心して暮らすことができます。森からの水は、山すそにあるため池に蓄えられ、農地に恵みをもたらします。森の恵みの維持、向上に努めることが大切です。



里山の秋 五藤池（白島）

里山はどのように維持されてきたのか



松茸狩（昭和初期）の写真/郷土資料館

箕面でも、昔はたくさんマツタケが取れたとの話をよく聞きますが、マツタケが取れる山を復活させることが可能でしょうか？

昔のアカマツ林では、林内のナラやカシ類を刈り取り、薪として使い、落葉や落枝も焚き付けとして利用し、成長したアカマツは家の梁などに利用し、伐採された跡地には、また先駆樹であるアカマツが侵入し、アカマツ林が持続的に形成されていました。

アカマツ林は、放置しておくとも、ナラやカシの林に変化していきます。こうした森の時間的な変化を「遷移（せんい）」といいます。

昔は、日々の生活に落ち葉などを繰り返し利用することにより森の「遷移」を止めて、アカマツ林を維持していたのです。

里山の課題（ナラ枯れ被害）

昭和30年代後半からの燃料革命などで、里山（薪炭林）の経済的な価値がなくなり、長い間放置され大径木になったことが、ナラ枯れ被害が拡大した要因といわれています。樹齢40～50年、胸高直径30cm以上のコナラを中心にナラ枯れ被害が発生しています。

行政が冬場に枯死木を伐倒燻蒸処理する他、市民団体（ナラ枯れ被害防止G）が防虫ネットを巻くなど、専門家の指導を受けながら役割分担の中で、さまざまな活動を継続して行ってきました。行政と市民が情報の共有化と意見交換を行いながら、「協働」の動を行った結果、急速なナラ枯れ被害の拡大を防ぐという成果ががっています。



専門家による防虫ネットの指導

里山の課題（シカによる食害）



自動撮影カメラの設置

近年、個体数が急激に増えたシカによる食害が顕著になっており、林内のササや草本、低木がシカに食べられ、林床が裸地化したところも見かけます。貧弱な下層植生は、森林生態系の劣化をもたらすほか、土壌流出にもつながると危惧されます。

頭数管理（捕獲駆除）は、行政が猟友会の協力を得て行っていますが、市民団体は、防鹿ネットの設置や頭数管理を適正に行うためのモニタリング調査などに協力しています。

山間・山麓部に、モニタリング調査のための自動撮影カメラを設置するなど、行政と市民が情報の共有化を図り、意見交換を行いながら、増えすぎたシカの保護管理活動を行っています。

四季折々に美しい森が 暗い森に・・・

山麓部は薪炭林として利用されていたことから、全域でコナラ林などの夏緑林（落葉広葉樹林）が広く分布しています。アカマツ林は松枯れなどで減少し、尾根沿いなどで残るのみとなっています。

農用林としての利用が行われなくなった夏緑林では、下層からソヨゴ・アラカシ・ヒサカキなどの照葉樹が台頭しています。

市の花であるササユリは姿を消し、コバノミツバツツジやモチツツジも減少しています。山麓西部にやや多く残っているサクラ類（陽樹）も、若齢木があまり見られなくなっているようです。

多くの市民は、四季折々の彩り豊かな山なみ景観を望んでいますが、このまま放置された状態が続くと、森の遷移が進み、四季の変化が少ない暗い森になる可能性が高いと考えられています。



里山の代表的な植物 コバノミツバツツジ

手入れが必要なスギ・ヒノキの植林地



ウツギ谷のスギ・ヒノキ植林地

山麓東部の谷山谷やウツギ谷の溪流沿い、及び粟生外院の参道沿いにはスギ・ヒノキの植林地がありますが、植林後に、ほとんど管理がされずに放置され、過密状態になっており、林床が暗くなって、下層植生が貧弱なところが多く見られます。

放置されたスギ・ヒノキ林は木が混み合い、林内に光が入らないと下草が少なくなり、表土がむき出しとなり、土壌の流出や土砂災害の危険性が高まります。間伐や山の手入れを行うと材も太くなり、根が深く土壌をかかえ込み、下草や落ち葉は雨水をため込みます。

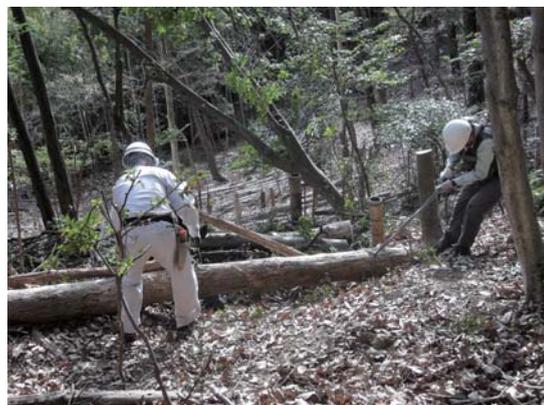
災害予防のためにもスギ・ヒノキの植林地の現状を確認し、必要なところは、少しずつでも整備を進めていくべきでしょう。

市民参加による里山の保全と活用、地域が一体となった森林整備

昔のような利用がされなくなった里山ですが、電気やガスを使う便利な生活をやめて、薪や炭を使う生活に戻ることが出来るのでしょうか？

薪ストーブを使ったり、落ち葉など使って栽培した野菜を購入したり国産材を使うなど、日々の暮らしの中でも貢献できることはありますが身近な里山にどのように向き合っていけばいいのでしょうか？

箕面でも過去に発生した災害の歴史の中で、ダムや堰堤設置などの対策が行われてきました。災害予防の点からも、森林整備をどのように進めるのかが問われています。山林所有者だけで森林整備を行うことは困難です。いつ起こるか分からない災害ですが、行政を含む多くの主体が何が出来るのかが、今、問われています。



山林整備ボランティアによる山の手入れ

《財産権と公益性、不明地主・不在地主、寄付の受皿作りの課題》



ナラ枯れ被害防止のためには、枯死木の伐倒燻蒸処理が必要ですが地権者が不明で連絡が取れないために、処理が出来ず被害が広がってしまう場合があります。山なみ景観保全地区（約380ha）の約80%は民有地です。相続しても登記をしないことが原因ですが、不明地主の問題は災害の防止や復旧を進める場合でも課題になるでしょう。

個人の財産権と公益性をどのように考えたらいいのでしょうか？国土交通省では、ようやく議論を始めたようですが、行政による制度設計が喫緊の課題となっています。

あわせて、不在地主などによる寄付（所有権移転）の要望が山麓委員会に多く寄せられており、寄付の受皿作りが課題となっています。

山とみどりのフェスティバル

「山なみにいだかれて、みどり豊かなみのお」を未来の子ども達に伝えていくために・・・
山麓保全やみどりのまちづくりをいっしょに進めましょう!

11月3日(祝)10:30~16:00		瀧安寺前広場・箕面駅前ステージ・瀧道ふれあい広場ほか	※雨天中止
催し物	内容		
工作・体験コーナー	【工作】コースター、どんぐりや木の切れ端など自然素材のクラフト、水源の森ジオラマ 【体験】竹ぽっくり、自然と歴史のミニガイド、CO ₂ 吸収実験ほか		
山のみどりを守る活動紹介	里山の手入れ、自然とのふれあい、ゴミの不法投棄防止、ナラ枯れ防止、森の保全 ホタルや生き物の保全、明治の森箕面国定公園50周年、森のセラピーの活動ほか		
楽しい森の音楽会	楽器の手作り体験と演奏会、森の音楽隊のステージ		
ポイントラリー	スタンプを集めて、滝ノ道ゆずるのしおりをゲットしよう!		
山とみどりの募金	募金にご協力をいただいた方に竹炭や竹ぽっくりなどを配布(先着順) 「箕面の森の守りびと」募金、「箕面の自然と生き物」スライドショーDVD募金		
軽食コーナー	コーヒー、ゆずタルチキン南蛮、ゆず味噌団子のチャリティ販売		
まちのみどりを守る活動コーナー	■箕面駅前ステージ 活動パネル展示、まちのみどりの募金、花苗チャリティ販売 ハーブティー試飲、竹トンボ、干し柿づくり、カマキリふれあい体験、昆虫工作ほか		
11月22日(水)~26日(日)10:00~17:00		箕面文化・交流センター地下1F 無料	※雨天決行
明治の森箕面国定公園写真展	箕面の自然の風景や生き物たちの写真展示、大宮寺の照葉樹林の保全ほか		
12月10日(日)13:30~16:00		箕面文化・交流センター8F 無料	※雨天決行
生物多様性フォーラム 箕面の自然を大切にしよう!	箕面の自然と生き物の理解を深め、生物多様性の保全を考える。昆虫館中峰館長の 虫の話。箕面川のオオサンショウウオ、オケ原池の外来魚やマミズクラゲの調査ほか		

山麓保全ファンドに助成申請して 山麓保全活動を行いませんか!

公益信託「みのお山麓保全ファンド」は、四季折々に美しい箕面のみどり豊かな山麓を守り・育て・活かすために山林所有者や市民の活動を資金面から応援(助成)する仕組みです。

多くの市民団体や山林所有者が活動を行っています。NPO山麓委員会(事務局)に、お気軽にご相談ください。

◆申請受付期間:

2月1日(木)~2月28日(水)

◆対象となる事業期間:2018年4月1日~2019年3月31日

◆助成金額:

○一般助成・・・1件あたり25万円以内

◆助成の流れ:

受付(2/1~28)⇒運営委員会助成決定(3月下旬)⇒助成(5月下旬)

箕面の森の守りびと(山麓保全ファンドサポート会員)を募集中です。

四季折々に美しい箕面の山のみどりを守り、育て、活かすために「箕面の森の守りびと」(みのお山麓保全ファンドサポート会員)を募集しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

公益信託「みのお山麓保全ファンド」募金実績

▽ 「箕面の森の守りびと」会員	個人の募金	...	195,000
▽ 企業からの募金	阪急電鉄(株)・阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト	...	185,114
▽ 市民団体からの募金	森の音楽会・だんだんクラブ・パトロール隊他	...	69,534
▽ 募金支援 自動販売機	箕面ネイチャーラーム・大阪観光	...	38,758
▽ ゆずるの足湯募金	箕面滝道ふれあい広場(大阪観光)	...	43,873
▽ DVD募金	「箕面の自然と生き物」スライドショーDVD募金	...	55,600
▽ 募金箱・その他	募金箱・インターネット募金(GIVEONE)	...	39,699
▽ 箕面市の「ふるさと寄附金」による「箕面の森の守りびと」会員	個人の募金	...	215,000
★いただいた募金は、市民や山林所有者による山麓保全の活動に使われます。		計	842,578

NPO法人 みのお山麓保全委員会

〒562-0001 箕面市箕面6-3-1 みのおサンプラザ1号館2階211号室

電話&FAX:072-724-3615 携帯電話:090-1133-3615

メール:yama-nami@yama-nami.net

ホームページ: www.yama-nami.net(検索:山なみネット)

* 箕面の山麓保全情報のポータルサイト「みのお山なみネット」

